

平成25年度第1回奈良市環境教育推進会議 会議録

開催日時	平成25年12月16日(月) 午前10時から12時まで	
開催場所	奈良市役所 北棟6階 第23会議室	
議 題	1. 奈良市における環境教育事業について 2. 人材育成システムについて 3. その他	
出席者	委 員	松村委員、岡本委員、北浦委員、黒飛委員、三宅委員、山本委員、生駒委員 【計7人出席】 (細谷委員は欠席)
	事務局	学校教育課：毛利課長補佐 地域教育課：松田課長 生涯学習課：柴田課長補佐 教育支援課：峯本主任 環境政策課：新井課長、油谷課長補佐、杉本係長、杉田
開催形態	公開(傍聴希望なし)	
担当課	環境部 環境政策課	
議事の内容		
<u>1. 奈良市における環境教育事業について</u> 環境教育の現状について、学校教育課、地域教育課、生涯学習課、教育支援課、環境政策課より、各課の実施事業を説明した。		
地域教育課 <ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども教室、放課後児童育成事業施設(バンビーホーム)を担当している。 ・放課後子ども教室では、地域の方とのつながりの中で、木工クラフトやネイチャーゲームを取り入れて活動をしていただいている。 ・バンビーホームでは、環境政策課で実施している出前講座等を利用している。年々出前講座の要請が増えている。 		
[質疑・意見の要旨]		
<ul style="list-style-type: none"> ・地域のコーディネーターは、放課後子ども教室やバンビーホームでどのような関わり方をしているのか。 →放課後子ども教室には、地域コーディネーターがいて、講師の方と連絡を取り合い、講座を実施している。 ・放課後子ども教室は国の方とリンクしていないのか。 →国からの補助金を受けており、国の事業の中に入っている。 ・地域コーディネーターの研修の内容と頻度は? →年6回実施しており、主に教室の運営についての内容である。地域教育協議会との兼ね合いも 		

あり、環境教育だけを取り上げて研修はしていない。今後は、年1回は環境教育の内容を取り入れることができればと思っている。

- ・奈良市青少年野外活動センターの運営をしており、環境政策課と一昨年からプログラムを年2度実施している中で、里山体験のコンテンツ作りをしている。来年度に向け、地域の方が指導できるように研修、体験ができないか。小学校5年生は野外活動センターに来るが、大人の方は知らない人が多い。地域教育課とタイアップして案内することは可能なのか。

→広報はさせていただく。

生涯学習課

- ・社会教育における環境教育という面で、公民館事業とくろかみやま自然塾を実施している。
- ・今年度の公民館における実施事業の中から、環境教育に関連するものを抽出した（資料）。しかし、健康・衛生・環境をキーワードとして抽出しているので、環境教育ではない講座も含まれている。環境教育で区分できる分類体系をもっていないという課題がある。今年度、来年度で分類体系を見直したいと考えている。
- ・奈良市には、公民館が24館あり、ネットワークをもっていることが特徴であり、このネットワークを活かしながら、環境教育に関する講座等を実施できればよいと考えている。
- ・くろかみやま自然塾は、黒髪山キャンプフィールドで子ども達に自然体験をしてもらう事業である。
- ・黒髪山キャンプフィールドでは、今年からコナラなどのカシナガ被害がみられるようになった。この被害をひとつの教材として捉え、里山の継続性を教えるプログラムができないかと考えている。

[質疑・意見の要旨]

- ・抽出している公民館事業は、すべての環境教育事業をひろえていない。例えば、高齢者、女性、青少年という区分でも環境教育事業はある。

→その通りである。

- ・くろかみやま自然塾は、外部講師を呼んで講座を実施しているのか。

→フィールドの指定管理をしているボーイスカウトを中心とした運営協議会の中で、自然体験に関心のある方に委託している。プログラムによっては、奈良人と自然の会などの外部講師に委託している。

- ・ESDのプログラムは、くろかみやま自然塾の委託先と生涯学習課のどちらで考えていくつもりなのか。

→両方である。

- ・生涯学習インストラクターやボランティアの登録管理の仕組みについて説明がなかったが、所管ではないのか。

→公民館の管理は生涯学習財団が行っており、インストラクター登録や要請も財団が実施している。

- ・社会教育主事の研修も財団に任せているのか。

→社会教育主事の資格は、社会教育主事講習を40日受けるか大学で専門単位を履修するかであるが、財団の採用条件として、社会教育主事の資格がある、あるいは県の生涯学習インストラ

クター講座を受講していることを挙げているので、公民館運営の専門性は保持している。

- ・公民館の職員全員が社会教育主事の資格を持っているわけではない。
 - ・公民館から温暖化についての講座の依頼を受けることがあるが、受講希望者が少なく講座自体がなくなってしまうことがある。公民館の職員の方の環境教育の必要性に関する研修や職員と講座を一緒に考える機会はあるか。
- 公民館の講座は人をたくさん呼ぶことを目的としているのではなく、社会教育、環境教育として学んでもらうものだと考えている。また、職員のスキルを上げていく取組も行っていきたいと考えている。
- ・くろかみやま自然塾や公民館の講座の参加者数をあげてもらえると分かりやすかった。また、公民館の指定管理を行っている財団の方にオブザーバーとして推進会議に出席していただくことも考えてほしい。

学校教育課

- ・ESDについては、幼稚園から高等学校まで世界遺産学習を中心とした取組をしている。世界遺産学習の副読本では、奈良公園の自然環境、春日山原始林、奈良公園の鹿の糞、糞ころがし、芝生の循環性について、奈良公園で見つかった絶滅危惧種ニッポンバラタナゴの里親制度、若草山の日本古来種ノシバの保護活動の取組を紹介している。
- ・環境政策課実施の出前講座を校舎長会で案内し、受講してもらっている。
- ・地域と学校をつなぐ取組として、菜の花プロジェクトを実施してもらっている。
- ・今年から、新規事業として「ECO キッズ！ならの子ども」を実施している。小学校3年生111クラス、約3,000人を対象に、環境出前講座として、「地球温暖化」や「省エネ」について授業を行っている。子どもを通じて保護者にも協力を呼びかけながら、家庭での節電の取組を促している。

[質疑・意見の要旨]

- ・道路の脇や川の土手などのゴミを減らそうというようなことはどこも取組まないのか。
- 環境政策課では、美化促進重点地域を定め、ポイ捨ての禁止区域とし、またあわせて路上喫煙禁止地域にもなっており、行政としては動いている。ESDの考え方で、ゴミの減量については難しいところがある。地球温暖化対策地域協議会（以下、NEW）の中で、CO₂削減のため、レジ袋有料化の動きはある。
- 佐保川では、PTAや地域協議会、自治連合会等が協力して、年に1回清掃日を設けている。また、ECOキッズのスライドの中では、ゴミの分別、ゴミの減量、レジ袋をもらわずマイバックを持とうという内容が含まれている。
- NEWの出前講座で「ごみ分別レンジャーになろう」という講座を実施しており、好評である。
- 小学校4年生でごみのゆくえについて学び、環境清美工場の見学を行う。
- クリーンキャンペーンの取組は学校によってまちまちで、佐保小学校や佐保川小学校はホタルの住める川として佐保川の清掃を行っている。平城西小学校、登美ヶ丘中学校では通学時にゴミを拾うという取組を行っている。
- ペットボトルのフタを集めるエコキャップ運動や生徒会主催でクリーンキャンペーンを行っている学校もあるが、統一して行っているものは少ない。全小中学校で取り組める内容があれ

ばいいが、温度差があり難しい。

→大阪府貝塚市の近木川では、汚い川を蘇生するために、どこでどのような活動をしたかを共有するしかけをつくっていて、水質が改善されていた。ばらばらにするのはいいが、全体で俯瞰するしかけをつくってもいいかもしれない。

→子どもよりも大人への働きかけが必要である。

→NEW の出前講座で PTA の参観という形で講座を行うことがあるが、大人の方も捨てられたゴミによる被害の映像をみて衝撃を受けている。このような事例をいろいろなところで公表していけばいいのではないか。

教育支援課

- ・教育支援課は、教職員研修と子ども・親子向けのプログラムを担当している。
- ・教職員研修の体系としては、初任者研修、10 年経験者研修の法定研修、教職経験年数によって受講する研修、担当職務に不可欠な能力向上のための職務研修、教員が申込みをして受講する研修等がある。
- ・環境教育に関する研修講座は、初任者研修、教科領域に関する事柄を取り扱う専門研修、奈良らしい教育や教育の今日的課題に関する事柄を取り扱うテーマ研修、フィールドワーク等を行うホリデー研修の中で実施した。
- ・今年度環境教育に関する内容を取り扱った講座は 11 講座である。主な内容は、食育の進め方、家庭科の授業づくり、野外活動、理科教育、世界遺産学習に関するフィールドワークなどである。

(具体的な講座の内容)

教職員研修

- ・家庭科教育研修：調理実習で出たゴミを新聞紙でつくったゴミ箱に入れている。また、野菜くずが出ないようにしている。
- ・初任者研修：豆腐を使ったエコクッキング。
- ・野外活動（宿泊研修）：森林環境教育プログラムの一環として、森林保全の大切さ、間伐の必要性等について学ぶ。
- ・理科教育：放射線測定器を使って身の回りのもの（乾燥した昆布、ガラス等）から出る放射線を測定する。
- ・ホリデー研修：奈良公園のフィールドワーク。生産者-消費者-分解者のつながりを意識しつつ奈良公園の生態系を学ぶ。

子ども・親子向けプログラム（キッズ学びのフロア）

- ・地球温暖化、ケナフ、プラスチックの性質、地球にやさしいラーメンづくり等

[質疑・意見の要旨]

- ・ケナフの研修があったが、なぜ選んだのか。最近、ケナフは環境に悪い、マイナス要因であると言われている。

→担当係が異なるため、選んだ経緯は把握していない。

- ・講座の検討あるいは効果検証は、どのような形で行っているのか。

→研修講座に関しては、毎年運営協議会を開き、学識経験者もまじえ、年度の総括や次年度の講

座について話し合っている。また、講座終了後には受講者にアンケートを書いてもらっている。

- ・講座に関し、環境政策課から情報を提供した実績はあるのか。

→実績はない。

- ・情報を提供していない理由はあるのか。

→環境に特化した部分は、行政の中で進んでいない。市職員の環境への認識も薄いことから、来年度以降職員研修を行う予定である。

- ・個々の団体で行っていることがなかなか伝わってこない現状がある。今月に実施した環境教育ミーティングでは、各団体の活動報告後に情報交換を行っているが、こういう場に市の職員が参加されれば情報をキャッチしやすいと思う。

- ・教育センターができた当初は、各団体の情報収集を行っておられたが、2年目以降は講座の検討などの全体像が分からない。検討に際しては、幅広く情報をとって検討してほしい。

- ・ボランティアインフォメーションセンターには、活動を行っているいろいろな団体が登録されているので、参考にしてはどうかと思う。

- ・全体の講座数や、分野ごとの講座数の割振りに、何らかの制限はあるのか。

→講座数の明確な制限はないが、予算の範囲内で運営を行っている。法定研修については、県が行う講座数とのずれがないよう、連携を取りながら進めている。

環境政策課

- ・来年度から環境教育職員研修を実施する予定である。1年目は管理職対象に行い、講師は職員が担当する。

- ・環境出前講座を NEW と NASO に実施してもらっている。

- ・12月16日現在で、NEW 出前講座 27 件、講師派遣事業 8 件、NASO 講座 6 件申込がある。

- ・「ECO キッズ！ならの子ども」では、子ども達に CO₂削減、省エネについて気づいてもらうことを主眼にしているが、親もまきこみたいということで、一部にエコチャレンジシートを配布し、家庭でエコに取り組んでもらっている。シートには親のコメント欄もある。来年度も引き続き実施していきたいと考えている。

2. 人材育成システムについて

〔事務局説明〕

資料①2、3 ページの各課事業を対象者（こどもと大人）に分けて整理したイメージ図について説明した。

こども向け

- ・環境問題に関する様々な気づきや行動を幅広く促すことを主眼におき、将来の人材となることを目指す。

- ・学校園に対しては「ECO キッズ！ならの子ども」や NEW、NASO の出前講座を実施している。

- ・バンビーホームや自治会のこども会などの地域のこどもに対しても、NEW、NASO の出前講座を行っている。

- ・こどもに対する講座の場を増やす必要があるが、今活躍していただいている講師の方々ではしんどい部分があるので、講師の人材を増やすことが必要である。

大人向け

- ・大人向けとしては、教職員に対する研修、市職員に対する研修、公民館、自治会等に対する

<p>NEW、NASO の出前講座がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座は実施しているが、講座をして終わってしまっている。環境教育に携われる人材の育成にはつながっていない。 ・大人に対する環境講座を拡充していくために、環境教育に携われる人材を育成していくことが必要である。
<p>〔質疑・意見の要旨〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人向けのイメージ図で、地域教育課と生涯学習課からの矢印が消えているのではないかと。矢印を追加すべきではないかと。 <p>→その通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ECO キッズで、全小学校3年生に共通の教材で講座をしているが、全教師にECO キッズでこういうことを教えているということを伝える研修があってもいいのではないかと思う。 <p>→来年度は、4月当初に先生方にECO キッズの趣旨の説明をする予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ECO キッズは最終の出口があるのか。 <p>→環境にやさしい子ども達をつくっていくことである。特に家庭で節電を実行していくことを教えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、環境コンテストや節電コンテストのように、取組を発表するしくみをつくれればおもしろいのではないかと。 ・プログラムは年に1回だけか。 <p>→年に1回である。授業後半のメニューはいろいろなプログラムから選んでもらっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ESDの一環として位置づけされているのか。 <p>→ESDに関わってくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初、教職員の研修に入れて、外部講師に頼まなくても教職員で授業を行えるようにするという話があったが、どうなのか。 <p>→そうなればいいと思っているが、関係課をまきこんですすめていきたい。</p>
<p>〔事務局説明〕</p> <p>資料①4 ページの人材育成システムのイメージ図について説明した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材バンクをつくり、そこに環境教育指導者、アドバイザーとして登録して、その方々に学校や地域で活動していただくしくみである。 ・指導者になるための研修も必要である。 ・しみんだよりで募集をかけて、環境教育の指導ができる人を把握、整理し、要望があれば紹介できるような体制をとりたい。地域人材を掘り起こしてリストアップし、その方々がリーダーとなり、新たな人材を誘導、育成する。 ・図は環境政策課の一つの案であるので、次回の会議に向けて、各委員の意見を考えてもらいたい。
<p>〔質疑・意見の要旨〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネーミングが悪いと思う。人材バンクという名前を使っているところでうまくまわっているところは少ない。人を貯めることばかり考えるのではなく、大事なのは活躍してもらうことである。

- ・今までの説明にあったような人材が必要な場面に人を誘導していくことが大事である。活躍の場とセットで考えた方がいい。
- ・段階的にする必要がある。最初は資格など保有し、現状で動ける人を募集してはどうか。また、実際の事業に対して、指導できる人を募集し、手をあげた人に動いてもらってはどうか。
- ・各課でばらばらにするのではなく、つながれるようなしかけが必要である。

〔事務連絡〕

今年度中に次回の推進会議を開催し、人材育成システムの具体化を議案とする。